

令和6年度 仲西こども園 自己評価結果（設問別） 令和7年2月28日実施

〈評価方法〉

普段の保育を振り返りながら、次の各項目について保育教諭自身ができているとかを4段階で自己評価する。

【 4できている 3ほぼできている 2あまりできていない 1ほとんどできていない】

施設評価 自己 総合評価

1 家庭との連携（在園児）

3.5

保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	4.0	3.3	高	○養護への意識は高く、子どもの心身の健康状態に配慮している。 ○健康状態の共有は、毎朝のミーティングで十分なされている。
保護者が、子育てのなやみや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	4.0	3.1	高	
送迎の際の対話や連絡帳への記載等の日常に加え、個人面談や別機会を設けている	4.0	3.6	高	
家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	4.0	3.4	高	
園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを定期的（月1回程度）に発行している。	4.0	3.8	高	
あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	4.0	3.6	高	
利用者満足の上昇を目的とする仕組み（保護者評価、アンケートなど）を整備し、取組を行っている。	4.0	3.8	高	
虐待の疑いのある子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に紹介、通告する体制が整っている。	4.0	3.3	高	

2 環境・衛生管理

3.5

園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるように十分な対応ができている。	4.0	3.7	高	○園内の衛生管理に努める意識は高い。
園内に子どもたちが季節感を味わえるような掲示や飾りつけを工夫をしている。	4.0	3.6	高	
子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している。	4.0	3.6	高	
一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している	4.0	3.7	高	
新型コロナウイルスの感染対策を職員が十分に理解し、実践している	4.0	3.3	中	
新型コロナウイルス感染対策に関する国のガイドラインを設け、十分に理解、共有している	4.0	3.0	中	

3 健康支援

3.4

感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している。	4.0	3.4	中	○毎日の検温と個々の体調把握に努めようとする意識が高い。
感染症発生時に、発生状況や感染予防策についてお知らせやお便りで保護者に通知している	4.0	3.6	中	
不適切な療育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携、相談している。	4.0	2.6	中	
健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に速やかに伝達している。	4.0	3.8	中	
子どもの健康情報を共有し、既往歴（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に周知している。	4.0	3.6	中	
子どもの出生時から入園までの発育・発達の状況を十分に把握している。	4.0	3.1	中	
食物アレルギー児への対応として、原因食材の混入が起らないようルールを設定し、全員で共有している。	4.0	3.8	中	
食物アレルギー児への対応として、誤飲が起きないように職員同士の話し合い、チェックリストなどを作成している。	4.0	3.3	中	
保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を理解し、適切な処置をしている	4.0	3.8	中	
包帯や応急処置用品の使用方法を理解し、適切な処置をしている。	4.0	3.2	中	

4 安全管理

3.4

これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が理解している。	4.0	3.3	高	○次年度はヒヤリハットマップの活用方法について、話し合いを持ち改善を目指す
ヒヤリハットを常に意識して行動し、定期的に報告、共有をしている。	4.0	3.4	高	
ヒヤリハットを作成し、園内での事故の起きやすい場所を把握している。	4.0	3.9	高	

睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを職員が認識し、事故防止に努めている。	4.0	3.8	高	ついでに、
事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどが整備され、職員が理解し、実践している。	4.0	2.9	中	
園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方、ポイントを職員が理解し実践している。	4.0	3.9	高	
日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険を察知し、必要に応じて点検している。	3.5	2.7	低	
外部からの侵入に対し、マニュアル等を通じて、求められる行動を理解し、定期的に訓練を行っている。	3.5	3.3	中	

5 基本的理念と社会的責任 3.1

子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場となっている	4.0	3.3	中	○毎年施設間でも人権擁護についての研修を行い、職員の一人一人の意識が高められている。
子どもの人格尊重を意識して日々保育を行っている。	4.0	3.6	中	
子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てよう日々保育が行われている	3.2	3.4	中	
性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育が行われている	3.8	3.4	中	
子どもの特性や発達の過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助ができています	4.0	3.2	中	
子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような援助ができています	3.8	3.0	中	
子どもの生活リズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整えている。	4.0	3.4	中	
個人情報の取り扱いをマニュアル等により理解し、適切に対応している。	4.0	3.7	中	
保護者の苦情に対する対応、対策をマニュアル等により理解し、発生時は適切に対応している。	4.0	3.0	中	
10 「幼児教育を行う施設において育みたい資質、能力」を認知、理解している。	3.5	3.4	中	
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画を立てて教育・保育を行っている。	3.8	3.1	中	
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と園の目標・計画の繋がりを理解し、保育を行っている。	3.5	3.0	中	

6 保育の配慮事項 3.3

子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育が行われている	4.0	3.2	中	○引き続き、会議などで職員間での共有や話し合いで、子ども一人一人の状態に応じた指導や配慮をしっかりと行うことができるよう努めていく。
登園時に、子どもの発育や発達の状況、体の状態を細かく観察している	4.0	3.3	中	
職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	3.0	3.1	中	
園内や保育室など、子どもが安心できる雰囲気を作ることを心掛けて環境を構成している	3.2	3.3	中	
スキンシップや愛着を心がけて日々保育を行っている。	3.7	3.8	中	
一人一人の子どもの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	4.0	3.0	中	
一人一人の子どもが思いや意見をはっきりと伝えることができるよう配慮し、尊重している。	4.0	3.1	中	
子どもに分かりやすい言葉で優しく、穏やかに目を見て話しかけている。	3.5	3.4	中	

7 3歳以上児のねらいと内容 3.3

生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう、目標やねらいに基づいて保育が展開されている	4.0	3.4	中	○子ども自身が学べる環境構成の工夫に関しては研修などを通して学びを深めていけるよう職員全体で努めていく。
食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心をもてるようにしている。	3.5	3.1	中	
十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	3.8	3.4	中	
園内外の危険な場所を職員が把握し、安全に気をつけて遊ぶように声掛け、働きかけが行われている	4.0	3.4	中	
友達と遊びを一緒に工夫、協力したり、共に達成感が味わえるように声掛け、働きかけが行われている	3.5	3.4	中	
良いことや悪いことがあることに気づき、それらを守れるように声掛け、働きかけを行っている。	4.0	3.4	中	
友達と生活する中でルール的重要性に気づき、それらを守れるように声掛け、働きかけを行っている。	4.0	3.3	中	

生活や遊びの中で、自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、自信、自己肯定感を持てるよう工夫されている	3.4	3.2	中
友達との関わりを通して、相手を思いやる気持ちを持てるように声掛け、働きかけが行われている	3.8	3.2	中
園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	4.0	3.1	中
伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	3.2	2.8	中
自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	3.7	2.6	中
人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身に付けさせている。	4.0	3.3	中
絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくような活動を行っている。	4.0	3.1	中
子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように声掛け、働きかけを行っている。	3.7	3.6	中
音楽に親しみ、歌をうたったり、踊ったりする楽しさを味わう機会を作っておる。	4.0	3.7	中

8 計画・評価・育ちの見直し

3.3

全体的な計画、年間指導計画により、長期的な見通しをもち、職員が共有し、ディスカッションできる場がある	4.0	3.4	中	○園の教育・保育理念、目標のもとに指導計画を作成し、達成できるように実践しているという結果が伺える。 ○保育教諭自身の振り返り、評価を行い、改善へと努力を要するという自己反省がある。
年間指導計画により、長期的な見通しをもち、職員で共有し、日々保育を行っている。	4.0	3.3	中	
日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取り指導計画や自己評価に反映させている。	4.0	3.3	中	
保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	4.0	3.4	中	
日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案が作成されている	4.0	3.2	中	
子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	4.0	3.2	中	
1日の生活リズムや座に園時間および期間が異なる子どもが共に過ごすことを前提として計画になっている。	4.0	3.1	中	
対話や文章化による振り返りや評価により定期的な保育の改善がされている。	4.0	3.1	中	
職員がチェックリストによる自己評価を実施し、自身の長所や課題を発見し、園長の支援のもと改善に努めることが出来ている	3.6	3.1	中	

9 特別支援・障がい児保育

3.1

特別支援・障がい児保育について、園全体で話し合う、情報共有する場がある。	3.0	2.9	低	○会議などで職員間での共有や話し合いで、子ども一人一人の状態に応じた指導をしっかりと行うことができるよう努めていく。
障害のある子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立案している	4.0	2.8	低	
園内外問わず、職員が研修等を通じて障害児保育に必要な知識を得ることができる環境を整えている	3.5	3.1	中	
特別支援のために環境が整備され、保育の内容や方法に配慮ができています。	3.5	2.9	低	
医療機関や療育機関などから相談や助言を必要に応じて受けている。	4.0	2.9	中	
障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設けられ、信頼関係の構築に努めている	4.0	3.3	中	
障がいのある子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	4.0	3.4	中	
障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向に関しての情報提供や相談に応じている	4.0	3.4	中	

10 食育の推進

3.1

全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育計画が提供されている。	4.0	3.4	中	○委託業者と連携を図り、毎月会議を行い、見直しや改善を行っている。 ○アレルギー児への配慮を十分行い、全職員へ情報共有している。
子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している	3.0	3.2	中	
幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	3.0	3.1	中	
身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	3.2	3.3	中	
展示、お便りなどによって、適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	3.5	3.3	中	
調理員、栄養士、保護者と連携し、ここの食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	4.0	3.6	中	
子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	2.0	1.3	低	
食育の活動内容や考え方について、評価や改善を行っている。	2.8	3.0	低	
園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知することが出来ている	3.8	2.8	中	
感謝の気持ちをもって食事ができるように努めている。	4.0	3.3	中	

11 職員の資質向上

3.0

園内・外で行われる研修や会議に職員が積極的に参加し、資質向上を図っている	4.0	3.3	中	○外部の研修に積極的に参加し、知識や技能を互いに共有することで、継続的なスキルアップを目指していく。
園外で行われている研修に自発的に参加し、速やかに研修報告を行っている	4.0	2.8	中	
職員が各々個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	4.0	2.8	中	
自己評価に基づいて研修計画が改善され、園内外問わず研修受講ができています。	3.0	3.1	中	
職員に対して定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう促している	3.0	2.6	中	
自身の保育について、園長や主幹など自身の上司から意見や指導があった場合に、謙虚に学ぶ姿勢を持っている。	4.0	3.3	中	
職員の保育実践について、上司や同僚から振り返り、助言をもらえるような機会を設けている	4.0	3.1	中	
園の決定事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促すことが出来ている	4.0	2.9	中	
保育所の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないことを理解している。	4.0	2.9	中	
申し送りや情報共有など、他職員と連携をとるための取り組みがなされている。	4.0	3.7	中	

12 災害対策

3.7

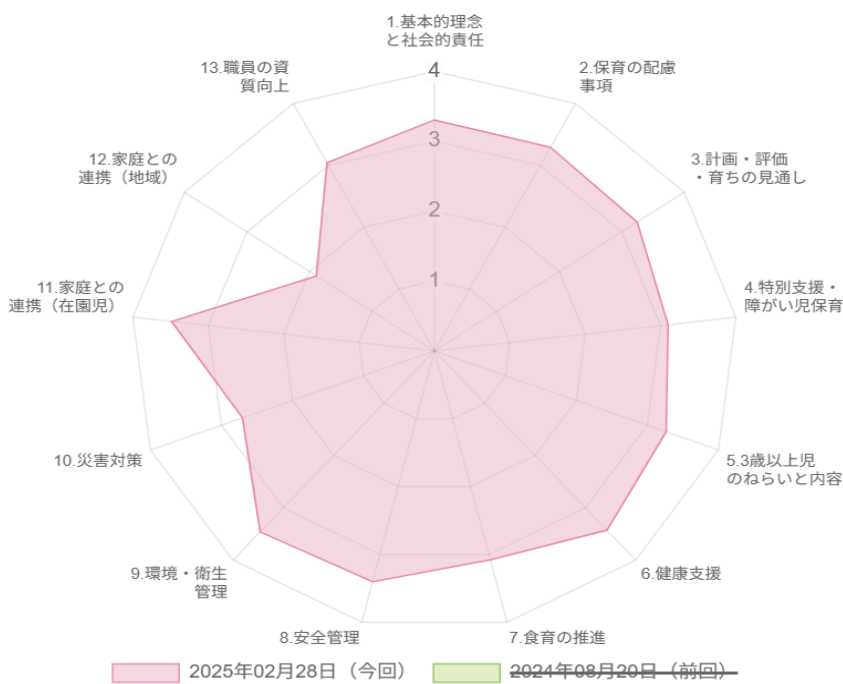
災害に対する園の方針などを打ち出し、職員に対して十分に理解を促している	3.5	2.9	中	○マニュアルに基づき、引き続き定期的な訓練を行い、対策について定着させていけるよう努めていく。
園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが出来ている	3.8	2.6	中	
消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を職員が把握できている	3.0	2.7	低	
園の立地や地域に応じたさまざまな災害を想定した避難訓練を行っている。	4.0	3.2	中	
保護者との連絡体制や引渡し方法のルールを明確にしており、保護者とも共有できている	4.0	3.0	中	
地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	4.0	2.6	中	
その地域で起こった災害の種類や程度及びその状態を知っている。	4.0	2.0	中	
職員全員がハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している	4.0	2.3	中	
地震や豪雨の際の園から避難場所への避難経路を把握している。	4.0	3.1	中	

13 家庭との連携（地域）

1.9

関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している	2.0	2.0	低	○認定こども園として、地域の子育て世帯が交流しやすい環境づくりに努め、幅広く周知できる取り組みを引き続き行っていく。
園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	2.0	2.0	低	
地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	2.0	1.6	低	
子どもの医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している。	2.0	2.0	低	
地域社会との交流や地域への発信を行い、園での取り組みを周知している。	2.0	1.9	低	

スコア比較（大項目別）



集計結果の総評

項目の中でも、家庭との連携（在園児）の面では、各自が理想に近い形で実践できた実感があるように感じられる。目指している目標が職員間で共有できていることが伺える。

家庭との連携（地域）の項目については、実践が難しい、または実践できていないと感じる傾向にあるため、具体的にどのようなことが難しいのか職員間で一緒に考えていく必要がある。

課題や改善すべき点など、より良い方向へ進められるように職員間で振り返りの時間を持ち、さらなる向上に向け目標達成への意識を高められるよう取り組んでいく。